

教科	地理歴史	科目	世界史演習	単位	2単位	年次	高校3年
使用教科書	『世界史B 新訂版』(帝国書院)						
副教材	『最新世界史図説 タペストリー(十八訂版)』(帝国書院)						

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

◆ 学年的に大学進学が大きな課題となるので、科目的には日本の大学の受験に対応すべく、学力をつけられるように指導します。

2. 学習の到達目標

◆ 大学進学も念頭にいれつつ、教養としての世界史を伝えていきたいと考えています。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断	c: 技能・表現	d: 知識・理解
観 点 の 主 旨	歴史は単に紙上の情報ではなく、人間の営みの積み重ねであることに気づくような授業展開の中で、生徒の理解・関心が高まるように心がけたい。	史実の把握には当事者意識を持つのが最適なので、生徒自らが歴史の中に身を置く疑似体験を通じて、歴史的展開の要因を理解できるように取り組みたい。	歴史資料としての地図や関係図などを史実と共に理解・把握する。	古代から現代までの歴史的展開を地域ごとに整理・把握すること。
評 価 方 法	授業での観察 様々な場面での問いかけに対する生徒からの回答など。	授業での観察 様々な場面での問いかけに対する生徒からの回答など。	授業での観察 小テスト	授業での観察 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

月	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	原始・古代史	人類の誕生、世界の各地での文明の形成と発展を主題とした授業。 ■原始では、猿人類と類人猿の差異や進化を通じての人間社会の環境の変化。 ■古代史は、文明の種類とその差異を初め、各地での地域的発展の特徴について。	○	○	○	○	古代史 文明の種類と差異や各地での地域的発展の特徴に対する理解度	授業での観察 生徒への問いかけに対する回答 小テスト
5			○	○	○	○		
6	中世・近世史	中世史 ヨーロッパや東アジアを中心に古代との時代的特徴の差異。近世史 大航海時代以降のヨーロッパ諸国の発展とグローバル化の中のアジア地域の実情。	○	○	○	○	中世史 封建制度下のヨーロッパ各国の王権の推移と教皇権との関わりや、同時代のアジア諸国の国情に応じての発展性に関する理解度 近世史 東西ヨーロッパ諸国の発展の差異や植民地化が進むアジア諸国の動向に対する理解度	授業での観察 生徒への問いかけに対する回答 小テスト
7			○	○	○	○		
8			○	○	○	○		
9	近代史	列強のナショナリズムに基づく国情の変化と戦い。ウエスタン=インパクトを受けたアジア諸国の状況の変化。	○	○	○	○	欧米列強のナショナリズムの具現化の差異や、ウエスタン=インパクト下のアジア諸国の国情の変化に対する理解度	

10								
11	現代史	2つの世界大戦とその処理をめぐる欧米列強とアジア=アフリカ地域の変化。	○	○	○	○	2つの世界大戦での主に原因と結果を中心に欧米列強やアジア=アフリカ地域に及ぼした影響についての理解度	
12								

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元 題材 で全ての観点について評価することとなるが、学習内容 小単元 の各項目において重点的に評価を行う観点もしくは重み付けを行う観点 について○を付けている。